

## 近藤悟先生を偲んで

日本福祉大学 情報社会科学部 学部長  
**岡 川 暁**  
Satoru OKAGAWA

近藤悟先生は、1994年に助教授として本学に赴任されました。これは情報社会科学部が開設される前のことであり、採用は開設準備委員会で確認され、所属は経済学部でした。学部開設後は環境情報コースに所属され、学部では「科学技術社会論」「技術マネジメント論」他を、大学院では、「環境政策・マネジメント特論」「環境・技術戦略と社会システム」に関する科目を担当されてきました。また、1996年に東京大学にて博士号を取得され、同年10月1日付で教授に昇格されました。情報社会科学部が開設された1995年から、近藤先生は実に数多くの校務をこなしてこられました。具体的には、教授会選出の大学評議員を4期8年（1995年～2004年）、学生委員を2期4年（1995年～1998年）、学部教育改革構想委員を2年（1997年～1998年）、教務委員、教務会議構成員および学部評価委員を1年（2001）、研究委員を1年（2002）、大学院情報・経営開発研究科専攻主任および情報社会システム研究所幹事を1年（2003）、という具合です。1999年のカリキュラム改訂では、「情報社会科学概論」という1年生の導入教育の中心となる新しい科目を考案され、そのまとめ役を引き受けてこられました。この科目は、現在「学びの入門」と名称変更はしているものの、1年生の導入教育の中心科目として引き継がれています。また、2001年は、大学評議員、教務委員、教務会議構成員、学部評価委員の4つを同時にこなされていたこととなります。

私は、人間情報コースに所属していたこともあり、また専門が違うこともあり、近藤先生と一緒に仕事（研究）をする機会はありませんでしたが、2003年の大学院改革に関わり、1つだけ無理な注文をした記憶があります。細かい経緯は定かではないのですが、確か大学院生の個人研究費の廃止に関することであつたと思います。当時専攻主任であつた近藤先生の、“修士の学生の研究費を廃止する”という案にかなり感情的になって反論したのですが、先生は大変穏やかに対応して下さい、さらに、私の反論を1つの意見として取り上げて下さいました。結局、私の主張は通らなかったのですが、あの時の“穏やかな対応”は今でも覚えています。先生の大変温厚なお人柄が今更のように偲ばれるところです。どうぞ安らかにご永眠下さいませ様お祈りいたします。